

平成30年6月21日
進路の手引き「軌跡」巻頭言

秋田県立本荘高等学校 校長 今井 智幸

たくましく未来を切り拓く人生のコンパスとして

春の花々が咲き始め、新緑を迎える4月は、清新なエネルギーが全国各地に溢れる。保育園、幼稚園、小学校から高校、大学、そしてあらゆる職場で、新年度がスタートし、不安、緊張感、期待といった様々な思いを抱き、新たな生活を始める入学生、新社会人は少なくない。捲土重来を期し、来年こそはと意を決し、勉学に励む予備校生もいるだろう。新年度は、花々、樹木、そして人間と、あらゆる生命の胎動と躍動が始まる時節である。

「夢はまだ決まっていないが、友達をたくさん作って、将来役立つ知識を身に付けたい。」(栃木県さくら市出身)、「これからは勉強して一級建築士になって親孝行したい。」(茨城県つくば市出身)これは、4月5日、秋田県立大学本荘キャンパスの新入生が、秋田キャンパスで入学式を終え、新入生歓迎会のためバスで本荘キャンパスに到着、地元のかわいらしい保育園児たちに迎えられ、思わず笑みを浮かべながら、これからの大学生活について述べた抱負である。(「広報ゆりほんじょう」平成30年4月15日)

長かった辛い受験期を乗り越え、これからの大学生活や将来に夢を託す若者らしい思いが語られている。受験期には、不安に襲われ、自信を喪失したことがあったかもしれない。しかし、そんな青春期の試練を乗り越え、得られた喜びや成長は、決して小さくはない。勉学を通し、自己を知り、自己を成長させ、学問に目覚めることは、決して稀な^{まれ}ことではない。この3月に本校を巣立った卒業生たちの姿が、つい重なってしまう。

人生は、よく登山や航海に例えられる。高い山の登山であるほど、山行計画を十分に吟味し、入念な準備や厳しい訓練を欠かすことができない。また、大海原に出航する航海であれば、様々な準備・点検や訓練を、繰り返し行なわなければならない。その道の専門家ほど勇猛果敢に見えて、遭難や失敗のリスクを熟知するからこそ、用意周到な準備、万全な訓練に、決して手を抜くことがない。

自分の進むべき道が明確になっていれば、厳しくても辛い勉学に耐えていける。不得意科目を克服するために悪戦苦闘することは、厳しい人生を生き抜くことに直結している。苦しくて手を抜けば、成長することはないし、歯を食いしばって努力すれば、それなりの成果が出て報われる。寸暇を惜しんで邁進すること、継続すること。自己の進路達成、自己実現に必要なならば、意を決して立ち向かい、取り組まなければならない。自分の人生は、自分で決める気迫が大切である。そして、勉学の世界は、それほど無味乾燥なものではない。日々の勉学の積み重ねが、一つの視野、価値を自分の手で掴み取る、思いもよらないきっかけになったりする。しかも、そこから自分の人生の展望が拓けたりもする。

本校の進路の手引き「軌跡」は、これまで様々な工夫が重ねられ、就職、進学を問わず、生徒一人一人の進路実現に必要なして十分な情報が掲載されている。この「軌跡」が、たくましく未来を拓くための人生のコンパスとして、自己の目標を達成する冷静な見通しや自己の可能性に挑戦する気概を持ち続ける確かな指針となること願っている。